

NARA STAT JOURNAL

奈良スタットジャーナル

Vol.1



統計は行政にとって

「最強の武器」

奈良スタットイベント

基調講演／地方創生に効くデータの魅力

奈良県健康づくり推進課／たばこ対策の推進

橿原市健康増進課／高血圧予防教室の取り組み

下市町健康福祉課／おたつしや下市21計画最終評価

統計研修

県職員向け／統計リテラシースキルアップ研修

市町村職員向け／統計研修(初級編)

統計相談窓口

統計に関するあらゆる相談に対応



奈良県

統計は行政にとって

「最強の武器」

統計の重要性

行政を発展させていくためには、統計が重要であることは言うまでもありません。統計により実態を把握・分析し、自らの立ち位置やトレンドを確認することで、何をやるべきかが見えてきます。統計は、行政にとって「最強の武器」と言えます。

また、統計に基づいた議論を行うことは、職員力の向上に繋がりますし、住民に対しても大きな説得力を持つこととなります。

これまでの取り組み

奈良県では、これまで県職員の「統計リテラシー」（データを分析して読み解く力や統計を活用する能力）の向上を図るため「県職員向け統計研修」を実施するとともに、近畿大学の安孫子勇一教授を奈良県統計分析専門員として奈良県統計課に配置し、県庁各部署からの統計相談に応じる体制を整えました。

奈良スタット事業

さらに、平成27年度には、県職員だけでなく市町村職員の統計リテラシーの向上を支援し、県全域に「統計重視の文化」を広げるため、奈良スタット事業（奈良県統計リテラシー向上事業）を立ち上げました。

この事業は、奈良スタットイベント・市町村職員向け統計研修・市町村職員向け統計相談窓口の3本柱で構成されています。



奈良スタットイベント

奈良スタットとは

「スタット」とは、統計を意味する“statistic”を略した言葉です。「奈良スタット」という名称の由来は、平成26年11月に奈良県で「観光統計グローバルフォーラム」が開催されたことにあります。フォーラム主催者のひとつが「EU統計局」という機関で、ユーロ圏の経済統計等作成や金融政策に寄与するなど、EUの政策決定に大変重要な役割を果たしており、「ユーロスタット」とも呼ばれています。この「ユーロスタット」にちなんで、奈良県の統計リテラシー向上に向けた新たな取り組みを「奈良スタット事業」としました。

「奈良スタットイベント」は、平成27年10月16日に桜井市立図書館で開催しました。

このイベントは、行政職員や統計関係者等を対象に、統計に対する関心や統計リテラシーの向上、エビデンスに基づく施策推進を図るため、初めて開催したものです。

イベント参加者が統計の重要性を再認識し、「統計を活用すれば自分たちの地域をもっと良くなる！」と前向きで元気な気持ちになれるようなイベントを目指しました。

当日は、市町村職員、県職員など、200名を超える方々にご参加いただきました。

イベントは、フルート2重奏による「歓迎コンサート」で幕を開け、荒井知事による開会の挨拶、「統計学が最強の学問である」の著作で有名な統計家の西内啓氏による基調講演と続きました。

休憩を挟んで、統計活用事例の発表に移り、健康・医療をテーマに、奈良県健康づくり推進課（たばこ対策の推進）、橿原市健康増進課（高血圧予防教室）、下市町健康福祉課（おたっしや下市21計画最終評価）の3団体が発表し、西内啓氏、安孫子勇一教授からは各発表に対するコメントを、荒井知事





からは総括コメントをいただきました。
 なお、各団体の発表にあたっては、
 安孫子教授の他、近畿大学の河上哲教
 授、河田幸規准教授に発表内容のプ
 ラッシュアップをお願いしました。

休憩時間には、「奈良県民手帳」が当
 たるお楽しみ抽選会を行い、会場通路
 では統計データや統計グラフィコンク
 ール受賞作品などのパネル展示も行いま
 した。



基調講演 西内啓氏 地方創生に効く データの力

東京大学医学部卒業後、東京大学大学院医学系研究科医療コミュニ
 ケーション学分野助教、東京大学 大学病院医療情報ネットワーク研
 究センター副センター長、ダナファーバー／ハーバードがん研究セ
 ンター客員研究員などを経て、現在は、(株) データビークル取締役。
 ベストセラー「統計学が最強の学問である」の著者。

基調講演の概要

統計学の役割

データを分析するということは、単
 に数字を見て議論するのではなく、具
 体的に何かと比較してみることであ
 り、分析することで問題意識が生まれ
 ます。

医学の世界では、かつては経験と勘
 による判断がなされており、正しいと
 された慣例や大御所の発言には異論を
 唱えることができない時代が続きまし
 た。しかし、今では統計データを根拠
 に異論を唱え、慣例を覆すことだつて
 できます。これが統計学の役割です。

地方創生の取り組み

研究者が新たな研究を始める時は、
 まず先人の知恵を学ぶため先行事例を
 探すことから始めます。

このため、行政職員の方で、「地方
 創生」や「まち・ひと・しごと創生」
 と言われても、一体何をすればよいの
 か分からないという方がいらつしやれ
 ば、まずは先行事例を探すことから始
 めてください。

例えば、特殊出生率を増やすために
 は、子育て経費の軽減と保育機関を先
 進国並みにすれば効果があるという研
 究があります。地域それぞれの事情も
 勘案し、先行研究を地域にうまく当て
 はめて活用することが大切です。

発表内容

- 健康寿命の延長に寄与する要因である喫煙率の低下を目的に、禁煙行動を促す要因を分析し、禁煙支援リーフレットを作成した。
- リーフレット作成にあたり、2千人を対象に、たばこに関するアンケートを実施。「自分の健康のこと」「家族のこと」「たばこの吸いにくさ」の3つの要因が喫煙者の「禁煙したいという思い」を強くすることが分かった。この結果をメッセージ化したリーフレットを作成した。
- さらに、リーフレットを読んだ人を対象に改めてアンケートを実施し、実際に禁煙した人数などを調査し、効果検証をするとともに、リーフレットで納得が得られなかった項目を洗い出し、リーフレットの改訂も行った。

奈良県健康づくり推進課

たばこ対策の推進



西内 啓氏 コメント

アンケートで、禁煙しようとしている人にも禁煙しようと思っていない人にも「同じ質問」をされていたことが良かったと思います。このような場合、「別々の質問」をしてしまうという失敗例がよく見られますので、参加者の皆様がアンケートをされる時は、是非留意してください。

安孫子教授 コメント

「これが正しいに違いない」という仮説を立てて検証するということがうまく出来ていると思います。また、リーフレットを作って終わりではなく、その検証をして改訂するところまでを意識し、しかも予算まで確保された点にはとても感心しました。

禁煙支援リーフレット

肯定的な表現に変えることで、受け入れやすい表現に！



医療機関受診のハードルとなる人のため、禁煙相談等ができるウェブサービスの紹介

発表団体の声

統計学を活用し、エビデンスに基づく取り組みであること、また、PDCAサイクルを強く意識した取り組みであることが、上手く伝わるような資料づくりに苦慮しました。

事前指導では、アンケートデータの処理方法や、発表用資料の見せ方などのアドバイスをいただき、より洗練された内容になったと思います。

今回の発表で、改めて事業モデルの見直しをすることができ、また統計を活用することの有益性を実感することができました。

今年度は、禁煙リーフレットを市町村や医療機関・薬局などでも活用できる体制づくりや、禁煙スタートアップ講習の実施、世界禁煙デーに併せたキャンペーンなどに取り組んでいます。
【県健康づくり推進課 上田章代さん】



上田 章代さん

発表内容

- 橿原市の高額医療費の疾病別割合を、「国保・後期高齢者医療被保険者レセプトデータ」等で分析すると、全体の21%を「生活習慣病」が占め、そのうち「腎不全」が40%近くを占めていることが分かった。このため、腎臓病の主要原因である「高血圧」に着目した。
- 市内全11地区ごとに高齢化率、1人当たりの医療費、介護認定率、特定健診受診率等を算出し、地区の特性を分析した上で、優先度の高い地区から順次「高血圧予防教室」を開催している。
- 教室の具体的な内容は、60歳以上の方を対象に、医師による講話、栄養面・運動面のほか、音楽療法による「リラクセス法」など計5回にわたるコースとなっている。

橿原市健康増進課

高血圧予防教室の 取り組み



西内 啓氏
コメント

大きな目標から、現実的なものにブレイクダウンするということでも良い道筋でやっておられ、素晴らしいと思います。これから国保データなどが県に集約されるとも聞いているので、今後はそれもうまく活用しながら頑張ってください。

安孫子教授
コメント

大きな目標を立ててブレイクダウンしていくためには、何事も仮説を立てていかなければなりません。仮説抽出にあたり地区の差に注目することは“市ならではの”の取り組みであり、他の市町村でも応用できるうまいやり方だと思います。

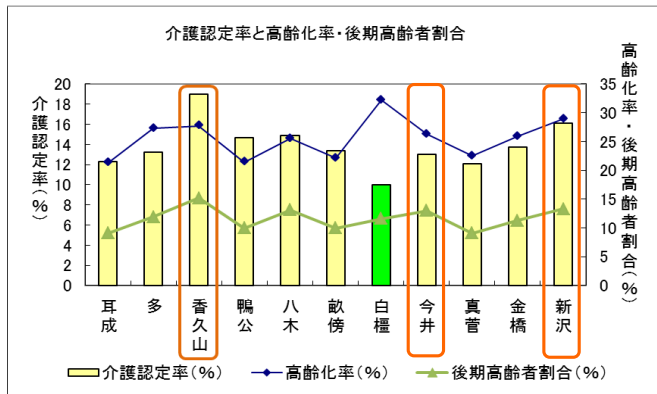


池田 佳子さん

【檀原市健康増進課 玉木美奈さん、植田地咲さん、池田佳子さん】

「私たちの事業はなかなか表に見えにくい取組ですので、広く市民や県民の方に知っていただく良い機会であると考え、発表することにしました。発表が決まってから、事前指導としてアドバイスを受けましたが、いつもと違う統計の観点からの助言でしたので、統計の勉強になりましたし、表にまとめるにはこうした方が見やすい、こういう数字は抜かしてはいけないといったことも分かり、表現しにくいものもうまく表現できたと思います。計画していた教室はすべて終わりましたので、この結果を総括して、今後の施策立案に活かしていきたいと考えています。このような取り組みは短期間では成果が見えてこないものから、根気よく続けていきたいと考えています。」

地区別の介護認定率



高齢化率・後期高齢者割合共に高く後期高齢者が多いと考えられる地区

発表団体の声

私たちの事業はなかなか表に見えにくい取組ですので、広く市民や県民の方に知っていただく良い機会であると考え、発表することにしました。発表が決まってから、事前指導としてアドバイスを受けましたが、いつもと違う統計の観点からの助言でしたので、統計の勉強になりましたし、表にまとめるにはこうした方が見やすい、こういう数字は抜かしてはいけないといったことも分かり、表現しにくいものもうまく表現できたと思います。計画していた教室はすべて終わりましたので、この結果を総括して、今後の施策立案に活かしていきたいと考えています。このような取り組みは短期間では成果が見えてこないものから、根気よく続けていきたいと考えています。」

発表内容

- 平成 15 年 2 月に策定した下市町の健康増進計画である「おたっしや下市 21 計画」について、平成 20 年度の中間評価を経て、平成 26 年度に最終評価を行った。
- 具体的には、運動習慣などの各指標項目について、アンケートや健診結果などから目標に対する成果の測定を行い、指標項目ごとに評価シートを作成。ライフステージ別・分野別・段階別など、様々な視点から集約・分析し、成果の「見える化」を図った。
- この最終評価により、日常活動でのデータ収集の必要性など、データの重要性を再認識するとともに、最終評価で見えてきた現状や課題を次期計画に反映させていきたい。

下市町健康福祉課
おたっしや下市 21
計画最終評価



西内 啓氏
コメント

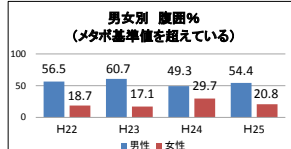
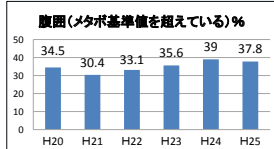
これまで捉えようと思っていなかった項目についてもきっちりとデータを揃え「見える化」を図られました。これにより問題意識が生まれ、それを施策に移すことで健康増進の成果も見られ、たいへん良かったです。

安孫子教授
コメント

本日はさらりと発表されましたが、中間評価の段階で評価できない項目を大幅に変更するなど、いろいろな失敗やご苦労があったと聞いています。そのような経験があってこそ、最終評価と本日の素晴らしいプレゼンに繋がったと思います。

～壮年期～
腹囲がメタボリックシンドロームの
基準値を超えている人の割合：
B悪化・不変

ライフステージ 壮年期(40～64歳)	I. 薄味でバランスよく、間食を控えましょう			
II-②	腹囲がメタボリックシンドロームの基準値を超えている人の割合			
策定時の現状値	目標	中間評価値	最終評価値	総合評価
未収集 (新指標のため)	減少	34.5% (39/113)	37.8% (59/156)	B 悪くなった又は変わらない指標
ベースライン調査等		調査 平成20年度 特定健康診査	調査 平成25年度 特定健康診査	



発表団体の声

私たちの取組は、検診結果やアンケートにより町の健康増進計画の指標項目について項目ごとと分析して評価をしていくものですが、統計という観点から検討したことがなかったため、「統計活用事例の発表」としてまとめのには苦労しました。一方で、改めて取組内容を振り返ることになり、考えを整理し事業を見直すことができました。

また、この取組は外部委託に頼らないで、データ集めから評価まですべて自分たちで行いました。この発表を通じて多くの方々に「自分たちでやろうと思えばやり遂げることができる」というメッセージを発信できたことも良かったと思っています。データ評価をすべて終えて最終評価がまとまったところであり、これを第2次健康増進計画へ反映させ、施策化へ繋げていく予定です。



上中 久美子さん

〔下市町健康福祉課 上中久美子さん〕

荒井知事総括コメント

今日はたいへん素晴らしいプレゼンを聞かせてもらいました。プレゼンをするので、施策を体系的に理解し、また整理や確認ができることから、県庁においても職員にプレゼンを勧めています。

橿原市は、地域のデータを使い、高血圧予防に絞って取り組みましたが、ただ、県の取り組みでも同じですが、住民に対する説得すなわちマインドを変えていこうという施策はなかなか難しいものだと改めて思いました。

下市町で印象的だったのは、カテゴリ分析を採用され、ライフステージや分野別など資料として一旦整理しておく、これを使って多角的に分析が出来るということでした。

行政は的を絞らなければその検証も出来ないしプランニングも出来ません。県の行政分野は非常に多岐にわたりますが、それぞれの分野で県もしっかりとプランニングしていきたいと考えています。

西内先生は、「統計学が最強の学問である」と言う本を書かれましたが、統計は行政の「最強の武器」であると改めて感じました。

イベント参加者の感想

- 自分の担当業務にもエビデンス・ベースドの考え方を取り入れ、より事業効果の高い取り組みができないか考えていきたい。
- 統計を使った具体的な事例がとてわかりやすく、コメンテーターの説明で理解が進んだ。
- 目的を明確化して調査を行い、そのデータを活用することで、住民の方々への取り組みに繋げていけると改めて認識できた。



★「奈良スタット」を紹介したテレビ番組はこちら★

奈良！そこが知りたい

2015年12月19日「奈良スタット 統計重視の文化とは？」

奈良!そこが知りたい

検索

<http://www.pref.nara.jp/41862.htm>

★統計の力をもっと知りたい方にお薦めの1冊！★

統計学が日本を救う

西内 啓 著 中公新書ラクレ



少子高齢化、貧困対策、医療費、経済成長などの様々な問題に対し、「統計学」が日本の進むべき道を示します。

ご案内

平成28年度 奈良スタット イベント

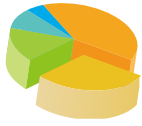


平成29年 **1月13日**(金)

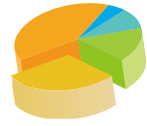
午後1時30分～4時(開場:12時45分) ※午後1時から歓迎ピアノコンサートがあります。

桜井市立図書館

- 基調講演 狩野 裕 (大阪大学大学院基礎工学研究科教授)
- 事例発表 奈良県雇用政策課 [県内事業所における働き方]
- 奈良市保健所医療政策課 [奈良市データヘルス計画]
- 葛城市総合政策企画監 [かつらぎ仕事創出プロジェクト]
- 河合町政策調整課 [そうだ、やっぱり河合で暮らそう!]



統計研修



市町村職員向け

受講者の声



王寺町政策推進課
奥田 奈緒さん

私は、王寺町役場で交付税や予算編成などを担当しています。王寺町でも統計に力を入れていることもあり、予算の査定や施策の決定に活かしたいと思いつきました。

研修の中で、統計を使って地域の「得意」な産業と「不得意」な産業を見極め、得意な産業に力を入れることで、地域外へのお金の流出を減らし、地域内への流入を増やすと、地域経済の循環を高めていくことができるという新しい視点を得ることができました。
この考えを使って、王寺の得意な産



業に力を入れていくことや事業のロス減らすことを念頭に置いた施策を自分から提案できるよになりました。今後、王寺町総合戦略の評価にも活用していきたいと考えています。

県職員向け

受講者の声



奈良県ファシリティマネジメント室
川合 正規さん

県内施設の利用者満足度調査の取りまとめを担当しており、アンケートの調査方法や集計方法を学びたいと思い受講しました。

研修では、グラフの正しい見せ方など基本的な内容から回帰分析など幅広く学ぶことができ、パソコンで実際に手を動かしながら学んだことで、実際に活かすイメージができました。

研修をきっかけに、アンケート調査の調査方法を偏りのないものに見直し、集計結果のばらつきを示す指標を取り入れました。さらに、前年度との



違いが誤差かどうかなど、より詳しい分析ができないか検討しています。
統計学の考え方を知っていると、色々な視点から物事を見ることができると、業務の幅がとて広がりました。

統計研修(初級編)

- 平成27年度から奈良市町村研修センターと共催で実施
- 講師は河上哲近畿大学教授
- 奈良市町村研修センター(奈良市町村会館)で9月と2月に同一内容で実施。19市町村から45人が受講
- 「地方創生を捉える視点と地域統計の活用」というテーマで、市町村民経済計算などから地域統計を読み解くとともに、地域の基盤産業や成長産業を産業別統計を活用して把握し、地域の経済構造を分析する研修内容

統計リテラシースキルアップ研修

- 平成25年度から実施
- 講師は安孫子勇一近畿大学教授
- 8月から12月まで5回講座で実施。30人が受講
- アンケート実施などに役立つ標本サイズの決定や、統計分析に必要な仮説検定や回帰分析・重回帰分析など、統計学の基礎から専門的知識まで幅広く学ぶ研修内容
- 平成27年度から1人に1台のパソコンを用意し、より実践的なメニューを設定

平成28年度 奈良県統計功労者表彰式

奈良県統計課では、永年にわたり統計調査の業務に従事し、その功績が特に顕著であると認められる統計調査員等を毎年顕彰しています。

日時：平成28年11月29日(火)午後1時30分～午後3時00分
場所：東大寺総合文化センター小ホール

〇 褒章／統計調査員

松並 慶子(田原本町)

〇 奈良県知事表彰／統計調査員

榎本 雅子(奈良市) 待夜 晴子(奈良市) 新本 啓子(大和高田市) 比企 綱江(大和高田市) 前川 慎子(大和高田市) 森岡 恭子(大和高田市)
内田 好子(大和高田市) 大谷 人美(橿原市) 仲川 佳市郎(橿原市) 中尾 茂司(橿原市) 田中 貞子(橿原市) 遠藤 勇(生駒市)
倉橋 章子(香芝市) 安川 孝(葛城市) 山下 輝男(葛城市) 吉村 茂樹(葛城市) 西條 裕紀子(斑鳩町)

〇 奈良県統計協会会長表彰／統計調査員

池田 雅美(奈良市) 榎原 早苗(奈良市) 齊藤 智介(奈良市) 神内 恵子(奈良市) 福西 眞智子(奈良市) 武山 清實(大和高田市)
多田 剛(大和高田市) 敷内 チカ子(大和高田市) 内田 敬三(大和高田市) 神原 良子(橿原市) 池田 綾(橿原市) 阪井 勝子(橿原市)
阪本 佳永子(橿原市) 辰巳 誠治(橿原市) 中澤 康男(橿原市) 尾谷 初美(御所市) 辻本 幸廣(御所市) 森田 守彦(御所市)
森村 元一(御所市) 和田 安弘(御所市) 小走 憲一(葛城市) 松田 久美(宇陀市) 崎谷 利予(斑鳩町) 比名 京子(王寺町)
中山 薫(広陵町) 松中 美紀(大淀町) 中西 富夫(下市町)

〇 総務大臣表彰／統計調査指導員・統計調査員

*国勢調査(指導員)

大芝 敏夫(奈良市) 扇谷 俊樹(奈良市) 大西 博文(奈良市) 鈴木 啓也(奈良市) 田中 伸一(奈良市) 長尾 健司(奈良市)
弘中 裕二(奈良市) 山村 栄之(奈良市) 岡田 敏幸(生駒市) 大森 初美(田原本町) 本多 康恵(王寺町)

*国勢調査(調査員)

坪井 和枝(奈良市) 外村 加代子(奈良市) 松田 好則(奈良市) 津田 昌宏(大和高田市) 村嶋 鈴子(大和高田市) 北橋 富子(大和高田市)
中田 敏次(大和高田市) 中西 幸雄(天理市) 島田 政男(橿原市) 藤野 三枝子(橿原市) 南 儀行(橿原市) 中尾 進(桜井市)
福井 佐公子(桜井市) 前川 武一(桜井市) 井森 優(葛城市) 植本 茂(葛城市) 西川 牧男(葛城市) 木原 繁一(宇陀市)
東峯 和己(宇陀市) 後藤 靖英(広陵町) 竹井 繁廣(広陵町) 中北 史郎(広陵町) 紺田 絹子(吉野町) 辻村 幸子(吉野町)
向井 英彌(吉野町) 阪口 治仁(黒滝村) 鹿尾 善之(天川村)

*労働力調査

松本 良美(奈良市) 池田 雅美(奈良市) 倉橋 章子(香芝市) 鈴木 圭子(奈良市) 南畑 左有里(奈良市)

〇 経済産業大臣表彰／統計調査員

*構造統計調査

後呂 佳江(橿原市) 西田 充代(桜井市) 橋田 道代(生駒市)

〇 厚生労働大臣表彰／統計調査員

*毎月勤労統計調査

上田 良子(香芝市)

〇 厚生労働大臣表彰／調査対象事業所

*毎月勤労統計調査

株式会社菊水楼 (奈良市) 株式会社奈良情報システム (奈良市) 共栄社化学株式会社 奈良工場 (奈良市)
ヤマト精工株式会社 (安堵町) 株式会社アクラム (広陵町) 株式会社オーカワ (下市町)

奈良県統計課では、奈良県及び市町村職員など

行政職員を対象に**統計相談窓口**を設置しています。



奈良県統計分析専門員が、統計分析の手法や調査結果の分析など、**統計に関するあらゆるご相談**に応じます。
まずは、統計課企画分析係まで、お電話あるいはメールでご連絡ください。
相談日は、原則毎週金曜日の13時から17時です。

相談内容(例)

- ・アンケート調査をするが、何人ぐらいを調査したらいいのか?
- ・利用者の満足度を知りたいが、具体的に何をすればよいか?
- ・計画を立案するが、成果指標などは何がふさわしいか? など

奈良スタットジャーナル

平成28年12月発行

奈良県総務部知事公室統計課

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

TEL 0742-27-8439 e-mail: tokei@office.pref.nara.lg.jp